

月例会ダイジェスト【96】

11月の月例会は「パーソナリティー障害・発達障害」と題して2人の講師を招き、ハイブリッドで開催。コーディネーターは小島健一氏（鳥飼総合法律事務所）と、木村友香氏（にしのうえ産業医事務所）が務めた。

まず岩谷泰志氏（ペディ汐留こころとからだのクリニック）の「岩谷セオリーによる診立てとは何か～パーソナリティー障害などの理解法～」からスタートした。岩谷氏は、近年の精神科診断のトレンドや、精神医学における「うつ」「パーソナリティー障害」の定義等を整理しながら、このような精神疾患の本質を定義する統一理論がなく、考え続けて行き着いたのが「岩谷セオリー」であることを話した。そして「岩谷セオリーでは3つの“軸”で人を理解する」と、それぞれの解説を始めた。

その一つで神経発達の偏り具合を診る「神経発達の軸」では、健常者（定型発達）と、ASDの人たちの違いは「程度」であり、自閉度が「ない」人はいないこと（スペクトラムの概念）を述べ、神経発達特性を診る要素として「イマジネーション機能（人や組織に対する洞察力・共感力や、他者の特性を俯瞰するメタ認知能力等）」「固執性（自分のやり方や、独自のルールへのこだわり等）／強迫性」「感覚の過敏／鈍感」を挙げた。

その人の社会志向性を診る「気質の軸」では、集団の中で高い評価や地位を求める「優位性志向型」、集団に積極的に関わり一員になろうとする「対象志向型」、人と距離をとって自分の世界を守る「自己志向型」を提示した。そして人はおよそこの3タイプに分かれること、それぞれが自分の特性を大事にしながら、社会適応をしていることを説明した。

最後に、臨床や労務管理上で大事な視点となる「Z軸（知的能力等）」についても言及。観察者はこれらの軸を組み合わせて、対象者の特性を包括的に捉える必要があること、“みんな同じ（であるべき）”という発想を捨て「この人の特性は、どこで発揮されるかを考えなくてはいけない」と、スペクトラムの概念を導入するには柔軟な思考が求められることを語り、講演を終えた。

次に岩本友規氏（Hライフラボ・筑波大学大学院人間総合科学学術院）が「発達障害の自分の育て方」と題し、自身が成人後にADHD・アスペルガー症候群と診断されて以降、主体性を持って行動ができるようになるまでの実践知を発表した。

岩本氏は、学生時代に友人たちとのコミュニケーションや、ゼミでの振る舞いで苦労したエピソードを紹介。企業に就職してからも、「電話で話を聞きながらメモを取るといった、同時に2つの作業ができない」などの特性から職場不適応に陥ってしまったことや、うつ病・双極性障害Ⅱ型の診断を受けて休職・復職を繰り返した経緯を語った。

その後、産業医の勧めで受診した現在の主治医にADHDと診断され、処方された薬が効果を発揮。「自分が次に何をしたらいいか、考える“瞬間”が生まれるようになった」と話した。さらに「自分の特性に合ったことをしよう」と気づいた岩本氏は障害者雇用の職場に移り、業務時間外には読書会に参加して発表をするなど、認知能力の向上につながるトレーニングを重ねた。

これらの努力により、その時々自分の心の状態を俯瞰する「心のメタ認知」ができるようになった岩本氏は、自分にとって“当たり前”である感情や価値観を保留にして、相手の心や価値観をイメージできるようになったこと、その結果、職場や家庭で主体的に考え、自他を尊重して行動ができるようになったことを話した。

「障害の有無にかかわらず、自分と相手の違いを常に意識し合えるような環境（企業）になれば、当事者も周囲もストレスを感じることなく働けるのではないか。これは今後の社会に求められることであり、自分もその実現に向けて発信を続けていきたい」と締めくくった。

後半の質疑応答では、岩谷氏に「問診でどのように患者を分類するのか」と、診断手法に関する質問が多く寄せられた。それに対し岩谷氏は「相手からの答えに少しでも齟齬を感じたら、幼少期や家族のことを聞いて深掘りする。自分が抱いた違和感を明確にしていく作業はとても難しい」と答えた。また「自責思考と他責思考をどう思うか」という話題が出ると、岩本氏は「自分は薬を飲み始めてから、自責で考えられる瞬間が生まれてそれが楽しかった。結果的にそのパターンで常に考えられるようになり、仕事も回せるようになった」とコメント。岩谷氏は「自責型というのは、見方を変えれば“自分が頑張れば希望が見える”という捉え方もできる。それは主体的に動けるといこと」と述べた。

最後に講師陣が挨拶して月例会は終了。3年ぶりにリアル開催された本月例会では、会場の様子も映し出され、ライブ感のある映像がオンライン参加者に配信された。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>